

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	さくら園グループホーム
(ユニット名)	第一グループホーム
所在地 (県・市町村名)	鹿児島県 知名町
記入者名 (管理者)	沖田 廣文
記入日	平成 19年 5月 1日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>①自主性の支援②自己決定の支援③自立支援④創意工夫⑤地域との連携(利用者が充実した生活をしていただく為には、地域、家庭、関係機関との連携が不可欠であり地域社会とのかかわりを積極的に推進、支援する。)</p>	<p>特にホームにおいては、⑤地域との連携を重点にその実践に努めている。</p>
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>職員は理念を共有し、日常業務でその実践に向けて活動している。</p>	<p>毎年の事業計画資料に掲載し、職員研修会での朗読、説明、会議室やホームに掲示して共有、実践に取り組んでいる。</p>
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>基本理念をホームに掲示するとともに運営推進会、家族会等を通じて声かけをしている。</p>	<p>法人事業所の行事等を活用し、さらに地域との交流の場をつくり、地域住民に信頼されるホームづくりに努める。</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>老人クラブ、民生委員会、デイサービス利用者、家族会、運営推進会等を通じ、何時でも声かけや見学に立ち寄っていただくよう広報に努めている。</p>	<p>各種会合や行事等を通じ広報に努めている。</p>
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>字の敬老会や行事等に参加、交流が図られるように努めている。</p>	<p>三大大行事については、町の無線放送をお願いして地域住民との交流が図られるよう呼びかけをしている。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	字の敬老会や老人クラブ等において、職員が積極的にお話しや踊りをしている。		字の婦人会の役員をしたり、積極的に地域住民との交流やボランティア活動に参加している。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価、外部評価によって自分達の日常業務の内容が確認、反省され改善に生かされている。(サービスの質の向上)		各項目についての自己評価、外部評価で職員の改善意識が共有できた。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在のところ、家族代表から職員に対する感謝の気持ちが述べられた程度で特にグループホームに対する要望等はなかった。		今後、活発な意見、要望がでる雰囲気づくりに努める。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	役場とホームは、約900mですので何時でも行き来できますので、さらにサービスの質の向上を目指して連携を密にする。		電話等で情報の共有、運営について連絡を密にしている。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	必要に応じ地域包括支援センターや役場と連絡、指導を仰いでいる。		今後、職員の制度に関する研修会を実施するとともに、地域包括支援センターとの連携に努める。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員研修やパンフレットを備えている。		職員研修を徹底する。また法人の行事等を通じ広報に努める。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項に添って十分な説明をし、特に利用料や事業所、職員に対する苦情、要望については小さな事でも声かけされるように説明をしている。	担当ケアマネジャーや、地区の民生委員等と連携を密にして十分な説明をして理解を深める。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置したり、また日常業務の中で利用者が職員に何でも話せる信頼関係を築くように努めている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時や電話等にて健康状態や日々の暮らしぶりを報告している。	○ さくら園の三人行事(夏まつり、敬老会、運動会)ほとんどの家族と話し合いの場を作っている。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置したり、家族会等で呼びかけをして声を聞くように努めている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に検討会をもって、お互いの課題について話し合っ て解決するようにしている。	毎月1回、定期的に各事業所代表で構成する検討会をもって意見等を聞いたり、また課題について検討、解決に取り組んでいる。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	勤務表作成は、スタッフ全員の話し合いで作成していますので、お互いで柔軟に対応できるように努めている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動については、利用者にはダメージのないよう必要最小限にしている。	今後もユニット代表の意見を聞いて対応する。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	郡、県の協議会に加入して、各研修会に参加するように努めている。また島内の研修会には夜勤職を除いて全員研修に参加するようにしている。	今後も島内外の研修をはじめ、資格取得督励に努める。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	島内のグループホームで、相互訪問体験活動を実施して勉強会をしてサービスの質の向上に努めている。	今後も他のホームでの1日体験とか職員の交流活動によってサービスの質の向上に努めたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	三人行事を全事業所合同で開催したり反省、交流会を全体でするなどストレス解消に努めている。	心和会での交流会や役員との親睦交流の機会を多くする。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	法人の資格取得者のほとんどは、就職してから資格を取得された。これが大きな自信と志気になっている。	図書を充実したり、資格取得の督励に努め向上心をもって働き続ける環境づくりに努める。
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	初期～入居に至るまで本人と良い関係が保てるように受け止め努力している。	○ 生活暦や趣味などを知り、理解を深めるようにして会話できる場を見つけ出している。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	島内の人間関係が地域性も良く知り合いになっている事もあり、こころやすく話し合いの場ができ受け入れられている。	○ 年中、農作業等に追われている事もあり。家族の方は家では面倒が見れないのでと職員への労いの言葉ばかりである。もっと意見を出してほしい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	特に経済的な面に対してなど説明、対応している。	○	担当ケアマネジャー、管理者、計画作成担当者で検討、説明し最も適切なサービス提供に努めている。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族と相談しながら、家族が納得される場合のみ行っている。	○	日中の暮らしや食事の体験など行っている。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	島言葉で会話し、喜怒哀楽を共にできる場面づくりをしている。	○	地域の島言葉をもっと深く理解していきたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族会、夏まつり、敬老会、運動会、クリスマス会、年祝いなど常に働きかけ共に本人を支えていく関係づくりをしている。	○	近況報告を常に行うようにしていて、ホームでの生活が楽しめるように努めている。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	墓参りや孫達の行事への支援をしている。	○	面会時等、本人と家族が居室で水入らず会話を楽しませている。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の字めぐりや友人と面会ができるように野外活動を実施している	○	職員がその時その瞬間ゆったりとできるようにしたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	趣味や楽しみを共に関わりあえるように支援している。(島唄、読書、農作業、散歩等)	○	入居者同士が支えあえるような場面づくりを、その日の心身を考慮して対応している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	面会や食事の介助など支援している。	○	在宅に戻れた方には面会、ドライブ、ホーム見学など断ち切らないおつきあいをした。
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人と話しあったり意向等の把握に努めている。理解できない部分が多く、家族と話し合い本人の意向に近づけるようにしている。	○	時間をかけてゆっくりとできるように取り組みたい。困難な場合は「入居者ごとのメモ帳を作成」している。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のサービス提供事業所、家族、本人等から今までの生活を把握するように努めている。	○	入居当初に生活暦、趣味、学歴、習慣などできる限りの情報を集めている。情報の収集が十分できるようにしたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	本人の心身の状況等を観察記録して、一人一人の一日の過ごし方を考慮している。	○	ケア記録に毎日、職員が記録し変化に対応しながら、気づき帳で連携を図っている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族、本人、全職員と必要な専門職と話し合いケア計画に努めている。	○	極端に面会の少ない方については、できる限り回数が増えるように声かけをしている。職員が常に入居者の動静を把握し計画に反映させている。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月もしくは必要時に応じて見直しを行い、現状にあわせて計画作成している。	○	専門職の意見を取り入れ家族に相談して、職員間の連携を図り現状にあった計画を作成している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケア記録を、個別化し情報を共有しながら実践し見直しに活かしている。	○	毎日の個別ケア記録して情報を共有しながら実践し、また日々の特記事項を考慮して見直しに活かしている。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人が旅行や外泊、家族との外食など希望される方については積極的に応じている。	○	
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	月に2回の島唄会や民生委員、婦人会、老人会、消防署、保育園等の協力支援を受けている。	○	しらゆり保育園児との交流会、消防署との訓練、ボランティア、慰問などがある。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	居宅介護支援事業所や地域のケアマネジャー、事業所と必要に応じてサービスの支援をしている。	○	居宅介護支援事業所や特養のケアマネジャーと話し合い支援している。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	今後、考慮します。		町保健福祉課担当から指導を受けています。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	専門医(皮膚科、眼科、耳鼻科、歯科等)に送迎し受診の支援を行っている。	○	かかりつけ医 月に2回、定期的に回診健康の管理を行っている。



項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症、精神科などの診断や治療を受けられるように支援している。	○	島内では、かかりつけ医が専門医になっており随時支援を受けている。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	かかりつけ医院の看護師、特養、デイサービスセンターの看護職と相談しながら支援している。	○	ホームが特養併設な為、特養の看護職など身近な医療的な活用の支援を受けている。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院した場合、早期退院の為の話し合いを行っている。	○	入院中は面会に行ったり、その都度、情報交換に努めている。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合のあり方について、入居時に話し合いまた常に家族の意見を聞いて対応するように努めている。	○	病院の入院や併設の特養への入所を行っている。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	かかりつけ医の下で、回診時に話し合い指示を受けている。	○	毎日のバイタルを把握して変動があれば、医師の指示を受けまた家族にも情報提供して適切な対応に努めている
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	食事介助、コミュニケーションを図りながら情報の提供をしている。	○	情報交換を行い必要に応じて行っている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	そこねないよう声かけ対応に努め、個人記録等に留意している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	その人の力にあった説明を行い、本人の思いなど表しながら手伝いなどしてもらっている。	○ 入居前に本人や家族への説明をもっと行って理解を深めていきたい。(共同生活の場の提供であり、体を動かす施設である。)
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務の流れとして決まりはあるが、その日の過ごし方や、その人のペースなどを大切にしている。	○ できる限り入居者の一人一人の希望にそった支援ができるように努める。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	近隣の美容師にホームに来てもらい、好きなカットなど行ってもらっている。また希望にあわせて他の理容所、美容院、衣料品店に送迎している。	○ 個性を大切にしたい髪型や服装おしゃれの支援をしている。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	島唄など好きな音楽を流し、楽しく工夫して準備や食事、片付けを一緒にしている。	○ 食欲を高め楽しく食べられるような言葉かけや働きかけを行っている。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人の好きな食物等について、本人や家族より情報を収集して、声かけ日々の生活の中に取り入れている。(コーヒー等)	甘い物が好きな方に、家族と話し合い購入してもらい、10時、15時、19時の希望にて黒糖等を瓶に入れて渡している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	各自の居室にトイレがあり、おむつの方でもトイレでの排泄に取り組んでいる。	○	尿意や便意の訴えがなくても、食事前なので手を洗いに行きましよう誘導する事で、トイレでの排泄がスムーズにできている。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人一人の希望やタイミングに合わせ、午前中入浴や夜間入浴など楽しんでもらっている。	○	入浴して大丈夫かの見極めをしている。くじ引きやレク活動の後で行っている。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	睡眠の把握をし、夜眠れない入居者には1日の生活リズムづくりを通してしている。	○	夜間の不眠時は温かい飲物や黒糖など摂ってもらっている。
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日々の生活の中から、楽しみや役割など見つけ支援している。(スポーツ、踊り、島唄)お膳拭の免許を取得したと手伝われている	○	島料理、持ち歌、米の研ぎ方や生活の知恵等を教わっている。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人と家族の希望で所持金については対応していますが、今後入居者の程度に応じてお金の所持、使用を支援するように努める。	○	本人の意思を家族に相談し、お金を持ち使えるようにしていきたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	島内の名所や思い出の場所、お墓参りなど外出の機会を支援している。	○	入居者の行きたいところを本人や家族から把握しており、外出できるように支援している。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	本人が家族と共に出かけられる機会をつくっている。(外食、地域の行事)	○	行ってみたい、普段は行けない所に又は個別のことで話あって見るが意思が特にありません。(どこでも良いと言われる。)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や代筆等したりしている。	○	島外の家族へお元気な声だけでもと電話をかける機会をつくっている。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族の面会や、馴染みの人達が気軽に常時、訪問され楽しまれている。	○	地域的に馴染みの人達との出会いが多い。出会いの場で親しくできるように努力もしている。
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員共通の認識のもと身体拘束0を実践している。	○	身体拘束マニュアルに基づき、身体拘束をしなければならぬ状況をつくらない。五つの基本的ケアに努めている。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	自由な出入りができている。夜間のみ施錠している。	○	本人が鍵をかけてほしいと不安になられる方のみ、ホーム手製のロックで対応している。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	プライバシーに配慮しながら、昼夜を通して様子を観察して安全に配慮している。		A,B,C、夜、常時入居者の様子をケア記録等を準備して行っている。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	一人一人のその時の状態に応じて取り組んでいる。		危険物はその必要時に渡し、使用后 説明して保管している。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	緊急時の対応や事故対策のマニュアルがあり、すべての職員が内容を確認している。		勤務体制を強化し、入居者の状況把握や状態に応じた事故防止を常に取り組んでいる。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	医師、地域のケア関係などと研修会や訓練を行っている。	○	病院の看護師や特養、デイサービスの看護師の指示や助言、訓練を行っている。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防訓練を行ったり、地域の住民の協力を得られるように働きかけている。	○	特養、消防訓練年2回、職員のみ、グループホーム訓練2回には入居者と共に参加、避難方法を身につけるようにしている。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	特に認知のできない入居者の家族などに状態など説明し理解を求めている。	○	状態の変化時など家族の面会時、または電話などして対応策を話し合っている。
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェックや普段の状態などから不調の発見を早期に行っている。	○	その日の勤務者同士で話し合い、かかりつけ医との話し合いや受診をしている。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	症状の変化を見極めながら指示通りに服薬している。作用や用量について理解している。	○	かかりつけ医の指示に従い、服剤表などと照らしあわせながら支援している。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	一人一人の希望など入れ葉草や食材など、また腰部マッサージなど取り組んでいる。	○	便秘予防食にカスピカイヨーグルト、スキムミルク、パパイヤなど摂ってもらっている。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔清潔の必要性を説明し、毎食後、口腔状態を観察し支援している。	○	口腔ケア、スポンジなど状態によって支援している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者一人一人の水分、食事等の摂取チェックを毎食実施し習慣性など考慮して支援している。	○	排泄との関連を見極めながら行っている。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザの予防接種を家族、本人の納得の上で実施し、保健所の指導を受けたり、マニュアルなどから感染症対策について適切に行っている。	○	食前の手洗いや手指の消毒を毎回、実施している。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日、買物に行き食材の準備と管理をし、調理用具等は乾燥機を使用している。	○	食中毒の予防マニュアルを職員全員が確認している。
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	親しみやすい表札をかけ、住民も親しみやすいようになっている、四季を通して草花も咲きほころび気軽に入れる玄関まわりになっている。	○	入居者は庭先で草花を摘んで、居室に飾ったり水撒きなど行っている。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員でアイデアを出しあって生活感や季節感を取り入れて居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	ソファや長椅子等を設置して、自由にできるように確保している。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者が一人で座っていて外の草花を眺めたり、気のあった同士で自由に過ごせるような居場所の工夫をしている。	○	好きなテレビを一人で楽しんだり、家の光など静かに読み書きしたり、島唄を一人で唄ったりと楽しんでいる。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と話し合い、使い慣れた好みものを居室に取り入れ居心地よく過ごしていけるようにしている。	○	使い慣れた生活用品や寝具など持ち込まれ、安心して過ごされる場となっている。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	温度調節に気を配ると共に、窓を開け換気をしている。	○	温度、湿度計など利用している。自然な空気がいつも流れ、気になる臭いや空気のおよみがないようにしている。
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	調理台、流し台等の高さなど考慮しホール内は手すりなどがあり身体機能を活かしている。	○	ソファ、長椅子など自由に使用している。物干し等の高さの調整等自立した生活を送れるようにしている。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人一人の力量の把握をし、その時その瞬間の混乱や失敗を防ぎ自立して暮らせるようにしている。	○	混乱しないように常に一人一人の目配り、気配りし最大限に一人一人の力を活かすように取り組んでいる。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭で四季を感じながら、お茶会や昼食会など楽しんだり活動を行っている。	○	花、野菜づくり、草取り、食事会など取り組んでいる。桜の花見など共用空間で楽しんでいる。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない



項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			②少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている		①ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

○ 日々の生活の中で、天気や四季の草花やパパイヤ、きんかん、野菜等の収穫など目にする事ができていまして、入居者同士も会話され楽しんでいる。 ○ 行事への参加（夏まつり、敬老会、運動会、クリスマス会、島唄会）や、面会時のお茶会など、家族や地域の方々との交流が深められるようにしている。